

Hop Step Jump

13

初任者研修第 11 回 児童生徒理解を深めるために③

今回のテーマは『ユニバーサルデザイン(以下UDとする)の視点に立った授業づくりや学級経営について』。講師の先生は、梅花女子大学心理こども学部心理学科、伊丹昌一教授でした。

大人の笑顔が子どもの笑顔につながる！とても心に響きました。そして、できてない子だけを対象にするのではなく、全体にとってもう一度助けになるような行動、声かけを心がけていきます。一人ひとりに学びの違いがあって当たり前ということを念頭において、ひとまとめにすることはしないようにしようと、改めて思いました。

研修の中で、肯定的な言葉やあたたかい言葉がたくさんあり、とても嬉しい気持ちになりました。これはきっと子どもたちにとっても同じだと思います。今のクラスをもって半年も過ぎ、“褒める”というあたりまえのことが少しできていないように思います。今日の研修を受けてもう一度初心に戻ることができました。ありがとうございました。

「久しぶりに笑った気がします」という感想も多く、日々忙しい学校で子どもたちに向き合い、懸命に頑張っている先生方の様子がうかがえます。そんな皆さんに笑顔を取り戻させてしまうあたたかさやエネルギーが、伊丹先生の講義にはありました。それは伊丹先生自身が日々真摯に、子どもたちの真実と向き合っているからではないかと思います。

ユニバーサルデザインというと、分かりやすい絵や図が多いのが良いというイメージでしたが、今日の話聞いて、子どもの反応を見て、一番良いものがユニバーサルデザインであるということがわかりました。支援に正解はないので、一人ひとり、全体のことを考え、いろいろな方法を実践し、より良い支援を考えていかなければいけないと感じました。子どもの持っている力をしっかりと引き出せ、とらえることができ、返していけるように頑張ります。とても勉強になりました。素敵なお話ありがとうございました。

掲示物の整理、板書の構造化、視覚支援、予定の提示、肯定的な声かけなど、効果があると言われる方法はたくさんあります。しかし、やって満足するのではなく、その方法が子どもたちにとって安心安全な環境作りに役立ち、一人ひとりの学びに寄与しているのかどうかを検証し、必要ならば変えていく。UDの授業づくりや、特別支援教育を取り出すまでもなく、教職員としてとても大切なマインドセットです。

支援に正解はないという言葉や、子どもは成功体験で変わるという言葉で、自分のクラスの生徒を思い出し、自分が良いことをした時にほめたり、期待しているという言葉伝えるだけでも期待に応えようとするので、その通りなのかなと思いました。終わったらはがせる時間割なんかは、生徒だけでなく教員の気持ちも楽になるのかなと思いました。

生徒のみならず教員の気持ちも楽にする…まさにUDですね。手帳に書きだした仕事が1つずつ消えていくと、快感です。

『支援』ということが、「その子のために考えてやってみること。やってダメならまた別の方法でやってみればいい。」という言葉が心にストンと落ちました。子どもたちが帰ったあとに、1日のことを振り返って、できていなかったなと思うこともまだまだあります。できていなかったことは、次にいかして、できたことは自分でほめようと思います。子どもたちの笑顔のために、自分も笑顔でいようと思います。ありがとうございました。

「その子のために考えてやってみること。やってダメならまた別の方法でやってみればいい。」これが個別の支援計画となるのですが、この考え方は何も『支援教育』に限る必要はありません。どの子にも必要なことであり、まさにUDです。このあたりは学習評価、とりわけ形成的評価につながります。

支援教育は支援学級に在籍している子に対するものではなくクラス全員に当てはまるものだということに気付かされた。それが特別扱いにもならず一人ひとりのためになることだと分かったので、明日から実践していきたい。あと、笑顔もキープしたい。

子どもたちは笑顔の先生が大好きです (o^v)。